

平成 26 年 2 月 3 日

ところ会員 各位

## ところ会 2 月行事案内

平成 26 年度、第 2 回テーマ: 等々力溪谷散策を楽しむ

年明けの第二回目のテーマとして、等々力溪谷散策を楽しむとして行事を下記の通り案内します。

参加不参加の連絡は平成 26 年 2 月 10 日(月)迄に連絡願います。

申込連絡は参加・不参加及び参加の方は昼食のチョイス、パスタ or ピザ又は半々盛りかを連絡願います。

記

日 時: 平成 26 年 2 月 21 日(金) 9 時 45 分集合、雨天決行

集合場所: 西武池袋線・所沢駅、特急券売り場前

※:【西武池袋線】所沢(快速元町中華街行 9:56 発) ➡ 練馬・小竹向原・渋谷 ➡ 自由が丘(東急 10:48 着) ➡ 東急大井町線溝の口行 10:53 発 ➡ 等々力 10:57 着

コース:

等々力駅(11:00) ➡ 野毛大塚古墳(11:10~11:20) ➡ 善養寺(11:25~11:50) ➡ 多摩川土手散策 ➡ 等々力溪谷散策(矢川橋 12:10~13:00) ➡ 昼食(OTTO、13:00~14:00) ➡ 等々力駅 ➡ 九品仏駅 ➡ 九品仏浄真寺(14:25~14:55) ➡ 自由が丘駅(15:10 頃) ➡ ティータイム ➡ 帰路  
自由が丘(東急東横線特急飯能行 16:16 発) ➡ 所沢着 17:06、解散

昼食処:

イタリアンレストラン OTTO(オット) (パスタ、ピザ)

住所: 東京都世田谷区野毛 1-17-11 等々力溪谷スカイマンション B1

☎03-3704-3778 等々力溪谷散策の途中に階段を登って行きます。

■ランチ: ¥1,250【パスタ(シシリア)・ピザ(マルゲリータ)チョイス可、2 種半々盛合可】

上記費用は会として徴収します。

■アルコール: 冬季サービス価格で下記の値段、支払いは各自

グラスワイン: ¥275、グラスビール: ¥175、ビール: ¥275、ウーロン茶: ¥400

見どころ簡単ガイド

### ■野毛大塚古墳

野毛大塚古墳は、区立玉川野毛町公園にある全長 82 メートルの帆立貝式前方後円墳です。周濠を含めると全長 104 メートルとなり、関東地方では群馬県の女体山古墳に次ぐ規模を誇ります。近年の調査で、埋設施設が 4 基あることが確認されています。第一主体部は、粘土槨で覆われ

た長さ 8 メートルの割竹形木棺で、頸甲と肩甲を付属した長方板皮綴短甲と三角板皮綴衝角付冑のセットをはじめ、内行花文鏡・鉄

剣・直刀・鉄鏃・堅櫛・玉類・石製模造品などの副葬品が出土しました。その傍らに並ぶ第三主体部(第一主体部の次につくられた)は、箱型木棺で、第一主体部を凌ぐ量の武器類を出土しています。墳丘からは円筒埴輪や朝顔形円筒埴輪のほか、鶏・壺・家・楯など形象埴輪も出土しています。また、造り出し部には、柵形埴輪と呼ぶ特殊な円筒埴輪が立てられています。特に、当時の先端技術を駆使した武具、武器類の見事さが注目を集めました。調査の結果、野毛大塚古墳は、その特殊な墳形や出土品の多くの特長により、古市・百舌鳥古墳群などの畿内王権との関わりが深いことが指摘されています。

## ■善養寺

善養寺(ぜんようじ)は、東京都世田谷区 野毛にある寺院。真言宗智山派に属し、深沢村(現在の深沢地区の一部)から江戸時代初め、慶安年間(1648年-1651年)に移転してきた。**本堂の前にあるカヤの大木(善養寺のカヤ)は樹齢700年とも800年ともいい、1964年に東京都の天然記念物に指定されている。**

### ■歴史

善養寺は多摩川のほとり、国分寺崖線沿いに位置する。正式の名をようこうざんぶつしょういんだいびるしゃなでんぜんようみつじ「影光山 仏性院大毘盧遮那殿 善養密寺」といい、京都市東山区の智積院の末寺である。

江戸時代以前には、この寺は深沢村にあったと伝えられる。この寺の僧侶だった祐栄阿闍梨(慶安5年7月26日遷化)という僧が、本山の智積院で修業を積み、深沢村へと戻ってきたが不在の間に寺は荒廃していた。慶安年間に祐栄は下野毛村字根通りに寺を移転したと伝えられるが、『新編武蔵風土記稿』巻之四十九、荏原郡世田谷領菅刈庄下野毛村の条に「ソノ年歴詳ナラズ」と記述されている上、現在地への移転以前の善養寺のことについては文献がないためほとんど知られていない。一時期無住の時代もあったが、2012年の時点で判明している歴代住職は開祖の祐栄から数えて20人である。新編武蔵風土記稿巻之四十九には「真言宗新義ニテ、等々力村、満願寺ノ末寺ナリ」と記述されていた。

本尊は金剛界大日如来で、木彫漆塗り、高さは4尺余の坐像である。毎月1日には本尊のご縁日として大護摩供養が修行され、正月元旦にも元旦護摩が行われる。その他に節分会、施餓鬼、春秋の彼岸なども修業されている。世田谷区野毛や中町近辺、川崎市高津区下野毛を始め、都内や近県に檀家を持っている。

善養寺は玉川八十八箇所32番及び玉川二十一箇所14番の札所である。巡礼歌は「おごそかに 如来の大悲 かがやけり たまの川辺の 榎(かや)のみてらに」である。なお、境内からは鎌倉時代から室町時代にかけて造られた板碑が18基出土している。

## ■境内と文化財

丸子川にかかる赤い橋(大日橋)を渡って石段を上ると、一對の海駝(かいだ)の坐像が出迎える。海駝は架空の神獣で火除けの神といい、世界でも5つしかない珍しいものという。本堂は奈良の唐招提寺金堂を模したもので、鴟尾一對が載った瓦葺き、寄棟造りの屋根が特徴である。

本堂の前には、**善養寺のカヤ**と呼ばれるカヤの大木が生育している。このカヤには豪族の娘が助けた沢蟹親子の恩返し伝説があり、そばには**沢蟹**や**蛙**、そして**河童**の石像が設置されている。その他にも境内には**ガネーシャ神**、**石羊**、布袋像などがある。他に**亀王**、**儒者**の様な大きな石像、京都にあった道標がある等とても風変わりなお寺です、色々な石造物を探して見て下さい。

**ガネーシャ**：ヒンドゥー教の神、太鼓腹の人間の身体に 片方の牙の折れた象の頭をもった神で、4本の腕をもつ。障害を取り去り、また財産をもたらすと言われ、商業の神・学問の神とされます。天台宗・真言宗ではガネーシャを起源に持つ**歓喜天(聖天)**が天部の護法神として信仰される。

本堂内には、本尊の大日如来坐像の他、秘仏の不動明王立像とせいたか制多迦童子、こんがら矜羯羅童子などが祀られている。古くはこの地の鎮守である六所神社の神興堂や閻魔堂が境内に存在していた。1998年(平成10年)には、善養寺中興400年記念として梵鐘と梵鐘堂が完成した。

## ■等々力溪谷

あたたかい日差しの下、東京の溪谷を散策

東京 23 区内で唯一の溪谷である等々力溪谷は、東京都の名勝に指定されている自然豊かなスポットです。最寄りの東急大井町線 等々力駅から5分ほど歩くと、ゴルフ橋のたもとに「等々力溪谷公園入口」の看板と階段が見えてきます。そこを降りると谷沢川に沿って1Kmほど続く遊歩道に降りられます。2~3月 は梅、4月には桜が見ごろを迎え、5月になると新緑が爽やかな季節となり、秋はイロハモミジが紅く色づき、四季折々の多彩な表情を楽しむことができます。また、等々力溪谷内

には自然だけではなく、日本庭園や横穴式古墳、不動の滝、等々力不動尊、武蔵野れき層などの地層といった見所もたくさんあります。駅からのアクセスが良く、気軽に都内の自然を楽しめるスポットです。矢沢川は湧水を集めた川ですが、宅地化により水量の減少と水質悪化が問題となり、清流復活事業として仙川の水を取水し、谷沢川に導入して清流を保っています。

#### ■弁天堂明王台

等々力不動尊の横から、弁天堂明王台にも行けます。小さな池の中に、小さな島があり、その中央に弁財天様が祀ってあります。

このお堂に祀られている七福神の一人であられる弁財天であるご本尊様は世界中の人々を守ってくださる女神様です。そのお人柄は、世界中の人々の福祉と知恵を増し、寿命を延ばし、弁論の自由を保障し、災いや厄を取り除いてくださいます。弁財天様は、元々水神様であるので、多くは河岸や、島に祀られています。ここの弁天堂も、その形式に従って、池を「弁天池」と命名し、島を「弁天島」と命名してあります。

#### ■等々力不動尊

不動の滝から、階段を上っていくと、等々力不動尊があります。

不動堂本尊は、新義真言宗の宗祖興大師が山城国（現在の京都府）より、この地に移したと伝えられています。等々力駅の傍にある満願寺の別院です。

不動尊からは、等々力児童遊園や、弁天堂明王台へ行けます。

#### ■等々力稲荷堂・不動の滝

稚児大師堂を出て橋を渡ると、稲荷堂と不動の滝があります。

橋を渡ったら、左に進むとすぐに不動の滝があります。数千年もの間、一時の休みもなく流れ落ちています。

その音が溪谷に響くことから、この辺りの地名が「とどろき」と命名されるに至ったと伝えられています。

時々、修行僧が滝に打たれ邪念を取り去って修行している姿も、見受けられます。

不動の滝の左手奥には、稲荷堂があります。ここは、いつでも、花やお供え物などがお供えしてあります。ご用意していつてはいかがです

か？

#### ■稚児大師堂

溪谷の流れに沿って更に歩いていくと道が二股に分かれています。その分かれ道を右に行くと、「稚児大師堂」があります。

#### ■等々力溪谷横穴古墳

溪谷に沿ってしばらく歩き、玉沢橋をくぐるとすぐに、等々力溪谷三号横穴の目印の標識が見えてきます。

この標識を目印に、矢沢川にかかる橋を渡り、斜面を上ると、古墳時代後期から奈良時代（7世紀後半～8世紀）のものと推定される横穴式古墳があります。

この横穴式古墳はガラス越しに中が覗けるようになっています。このあたりの古墳は6基以上あり、須恵器や金属製の耳環（じかん）やガラス玉などと一緒に男女子供あわせて3体の人骨も発見されています。

#### ■九品仏浄真寺（くほんぶつじょうしんじ）

浄真寺は東京都世田谷区奥沢七丁目にある、浄土宗の寺。山号は「九品山」。

「九品仏」とは、一義的には、後述のとおり同寺に安置されている9体の阿弥陀如来像のことであるが、一般には同寺の通称となっている。転じて、同寺の周辺の地区を指す場合にも用いられる。

#### ■歴史

浄真寺の地は、もともとは世田谷吉良氏系の奥沢城であった。小田原征伐後同城は廃城となったが、寛文5年（1675年）に当地の名主七左衛門が寺地として貰い受け、延宝6年（1678年）、珂碩（かせき）が同地に浄真寺を開山した。

#### ■「九品仏」の由来

広い境内の本堂の対面に3つの阿弥陀堂があり、それぞれに3体合計9体のそれぞれ印相の異なった阿弥陀如来像が安置されている。この9体はそれぞれ、上品上生（じょうぼんじょうしょう）、上品中生、上品下生、中品上生、中品中生、中品下生、下品上生、下品中生、下品下生を

表し、これをあわせて九品(あるいは九品往生)という。この九品の仏から、浄真寺は通称「九品仏」と呼ばれている。

九品仏とは辞書では九体の阿弥陀仏としています。一方中国では、人物や物の性質を、上品・中品・下品の3つに大きく分け、これら一品ずつをまたそれぞれ上中下の三品に分けます、これを三三九品ともいいます。仏教(特に浄土教)では、衆生の機根の違いによって、極楽浄土へ往生するにも、9つのパターンがあると説かれています。よって、九体の阿弥陀さまはこの9つに対応するものだと考えます。……………山本(9つの浄土とする考えと、浄土へ行く道が9つという2つの考え方がある)

#### ■文化財と天然記念物

浄真寺には、「お面かぶり」と呼ばれる仏教行事がある。正式には「二十五菩薩来迎会」といい、3年に一度、本堂と上品堂の間に渡された橋を菩薩の面をかぶった僧侶らが渡るというものである。菩薩の来迎の様子を表すものだという。都の無形文化財に指定されている。次回は2014年8月16日に開催される。

緑濃い浄真寺には、**都天然記念物のイチヨウ、カヤ**がある。また、かつてはサギソウ園(世田谷区の花)があり、区民に親しまれていたが、駐車場拡大により取りつぶされ、今は本堂脇の片隅に僅かに残るのみとなってしまった。

以上